

今後のイベントスケジュール

※イベントスケジュールは予告なく変更となる場合があります。詳細は、各イベントのチラシや協会HP、Facebookをご参照ください。

世界の料理教室（ベトナム料理）

【日時】令和7年1月18日（土）9時30分～12時30分

【会場】小山城南市民交流センター「ゆめまち」1階 調理実習室

【案内開始】12月中旬予定（要事前予約）

日本文化体験（書道）

【日時】令和7年1月26日（日）10時～11時30分

【会場】中央公民館 地下1階 第2研修室

【案内開始】12月中旬予定（要事前予約）

日本語教授法講座（全5回）

【日時】令和7年2月5日、12日、3月5日、12日、19日 14時～16時 各水曜日

【会場】生涯学習センター ギャラリー

【案内開始】12月中旬予定（要事前予約）

スラブ民族舞踊を習おう！

【日時】未定（2月～3月予定）

【会場】未定

【案内開始】未定

協会の外国語講座がきっかけで発足したサークルが活動しています。お気軽にお問い合わせください。

サークル	曜日・時間	会 場	連 絡 先	会 費
中国語学習会	月2回 木曜日 13:00～14:30	小山市まちなか交流センター おやま～る 研修室	090-7244-6451 井上	月 3,000円
初級英会話サークルハロー	第1, 3 土曜日 13:30～15:00	小山市まちなか交流センター おやま～る 研修室	0285-25-2621 深町	月 2,000円
フランス語サークル (休止中)	第1, 3 水曜日 18:00～19:00	小山市まちなか交流センター おやま～る 研修室	090-6181-8204 田中	月 2,000円
サークル・スペイン語	土・日曜日 10:00～12:00	小山市まちなか交流センター おやま～る 研修室・他	090-8300-8421 合田	無料
イタリア語サークル	第2, 4 火曜日 10:00～11:30	小山市まちなか交流センター おやま～る 研修室	090-6004-8596 望月	月 2,000円
フライデーイングリッシュ	金曜日(不定期) 16:30～	小山市まちなか交流センター おやま～る 研修室	090-3698-3071 秋野	月 2,000円

入会は随時受付中！　スタッフ募集中！（ボランティアでイベントの企画/実施の協力をしてくれる方）

年会費 ●個人会員：2,000円 ●家族会員：3,000円 ●学生及び外国人会員：1,000円
(4/1～3/31) ●登録団体会員：3,000円 ●賛助団体会員：10,000円／1口

Membership fee structure

★Students or foreign national members…1,000 yen / year

★Regular member…2,000 yen / year ★Family membership …3,000 yen / year

小山市国際交流協会

事務所：〒323-0023 小山市中央町2-2-21 小山市総合福祉センター1階

受付時間：9:00～17:00(土日祝日を除く)

電話/FAX：(0285) 23 - 1042

Mail: oyama6iea@tвойama.ne.jp

協会NEWSがHPでも見
られます。



公式 Facebook



URL: <https://oyamaiae.com>



Oyama International Exchange Association

小山市国際交流協会

発行：小山市国際交流協会

編集：広報部会

News

No. 83

2024.12



30th Anniversary !!

「できることから始めよう！草の根レベルの国際交流」
小山市国際交流協会は、今年で30周年を迎えました。

設立30周年記念事業 第21回 Oyamaインターナショナルフェスティバル2024

9月28日(土)、小山市立文化センター小ホールにて、第21回Oyamaインターナショナルフェスティバル2024を開催しました。今年は小山市国際交流協会設立30周年記念の年でもあり、同時に記念式典、記念講演を実施しました。また、30年のあゆみをまとめた記念誌を作成しましたので、ぜひご覧ください。式典で表彰した方々のお名前は、右二次元コード参照。→



来賓、ご挨拶



持田会長



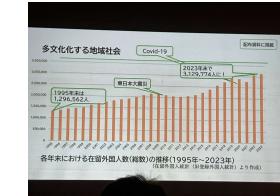
栃木県国際交流協会
野原理事長



浅野市長

記念講演

「多文化共生時代に求められる連携・協働・ネットワーク」と題して一般財団法人 自治体国際化協会 地域国際化推進アドバイザーの菊池哲佳様にご講演頂きました。



表彰式



功労賞受賞者代表 金田 哲夫氏



感謝状受賞者代表 丹野 井弘寿氏



デザイン選考入賞者代表 若松 健氏



30周年記念誌
はこちら！



30周年記念誌
(表紙デザイン、若松氏)

パフォーマンス



琴の演奏

スラブ民族舞踏

合気道

歌



バンド演奏

ウクレレ演奏

ダンス

ホールのステージでは7組の出演者による、楽器の演奏、歌、ダンス等各国の文化を演出したパフォーマンスが行われました。

ホール外では！



ブラジルのブース 小山工業高等専門学校

アフガンティ ベトナムティ 茶道 お琴の演奏
体験コーナー

ホールの外では、各国のブースが立ち並び、物品の紹介、販売が行われました。体験コーナーでは、アフガンティ、ベトナムティ、茶道、等、各国のお茶＆お菓子を体験でき、又お琴を弾くこともできました。

体験者の感想

アフガンティ：サフランの香りがとてもよく、癖がなくとても飲みやすかったです。サトウキビを固めたお菓子との相性も良く、とてもおいしかったです。新年や特別な時に飲むお茶と聞いて、今日を特別な日と感じました。

高井 里菜さん

ベトナムティ：バナナの皮から抽出したという緑色のお菓子と、日本の紅茶に近いお茶とはとても相性がよくとても美味しく頂きました。この緑色のお菓子は、もち米と緑豆の餡から出来た日本のお餅のようなお菓子で、バインコムというハノイ近郊のお菓子だと聞きました。異文化を体験できとても幸せなひと時でした。

川上 幹子さん

茶道：苦いかなと思ったお茶はまろやかでとても美味しかったです。マナーは周りの人を見様見真似で行いました。とても楽しい体験でした。

タマンプレムクマリさん

小山南高校ボランティア：国際交流イベントに参加したのは初めてだったのですが、各国の文化や伝統に触れることができ、とても刺激的で素敵なお時間をいただきました！とにかく楽しかったです！ありがとうございました。

高林 大暉さん

展示コーナー



地下1階の展示コーナーでは、着物リメイク作品、30周年記念誌表紙デザイン応募作品、語学サークル紹介、外国人ふれあい子育てサロン等の展示が行われました。

ベトナムフェスティバル

9月22日に宇都宮市で2回目となるベトナムフェスティバルが開催され、当協会も後援しました。主催者の栃木県ベトナム人会グエン フン タン会長や参加者の方々に話を伺いました。

<タン会長>

Q. 今回のテーマは何ですか？

「今回は『美しさ』をテーマにしています。人々の内面の美しさや、子供の元気さ、可愛らしさ、そしてベトナムの自然や文化の美しさを、ステージでのパフォーマンスや会場に出店しているお店を通じて表現したいと考えています。また栃木県に住むベトナム人が団結し、栃木県の多様性に貢献することを期待しています。」



タン会長（左）

Q. 来場者にはどのようなことを期待していますか？

「ベトナムについてもっと知ってもらい、またベトナム人コミュニティが一層団結し、強くなることを期待しています。」

<株式会社薬仙・とちの木薬局グループ 濱崎英幸代表>

「フェスティバルは今年で2回目を迎えました。栃木県とベトナムの交流がこれからも長く続いてほしいと願っています。私たちも、その交流の一端を担い、貢献できればと思います。これからも長く関わっていけることを楽しみにしています。」



<斎藤 里花さん>

私はベトナムのホーチミン出身です。日本に来て24年経ちます。今回のベトナムフェアでは、ベトナムの文化を日本に向けて紹介出来たり、普段日本にいて寂しい思いをしているベトナム人達が集まれて、交流出来、明るく楽しく過ごせることを期待しています。

パフォーマンス & 出店の数々



バンブーダンス



ステージパフォーマンス



恒例の“世界の民族衣装ショー”



交流タイム



閉会後、椅子を片づけ、交流タイムとなりました。（全員でスラブ民族舞踏を踊る）

ボランティア部門

学生の皆さんその他にも、多くの方々にご協力いただきました。ありがとうございました！



実行委員コメント

今回は30周年記念事業ということで、記念誌発行、記念式典、表彰式、講演会、フェスティバルと盛りだくさんの内容で心配していましたが無事滞りなくできほつとしています。多くの皆様のご協力に感謝いたします。

R5年の春から実行委員会では「小山市国際交流協会30周年記念事業」や「設立30周年記念誌作成」について、10周年・20周年事業の資料をもとに何度も何度も話し合いました。特に恒例のインターナショナルフェスティバルでのアンケートの結果を省みて企画したこの度の成果を、次年度からの活動に生かしていただければ幸いです。

安藤 良子

「より良いものを」と、当日までに何度も会議を重ね、アイディアを出し合っている実行委員の姿は心に残ります。いよいよ本番、ボランティアさんと実行委員の力が結集し、記念式典やフェスティバルが成功裏に閉幕しました。会場内、展示や体験ブースは笑顔が嬉しい異文化の共有でした。また、多文化共生の場を観ることもできました。30周年記念に、初めての実行委員として、携われたことに感謝します。

石田 美鈴

Oyamaインターナショナルフェスティバル2024、終わってみれば、私の想定以上の良い結果でした。要因の一つはTBC学院を始めとするボランティア部門の強力なマンパワー、それと事務局側の緻密な計画との融合、適材適所の効率の良いオペレーションでした。この経験を活かし次回も好結果を期待しています。

井上 敏男

記念誌編集作業を中心に、貴重な経験をさせていただきました。途中からの参加でしたが実行委員の皆様や事務局の方々に暖かく迎えて頂き、お陰様で快く活動が出来ました。また実行委員の皆様の経験、知識、人脈の広さに驚く事もありました。式典や記念誌の完成に微力ながらお手伝い出来たことを誇りに思います。今後とも宜しくお願ひいたします。

伊藤 忠

専門学校卒業後、多くの外国人学習者がいる小山市のボランティア日本語教師となった。その後、協会は、多文化共生、広報及び翻訳・通訳も行っていることを知ったが、30年の歴史を持ち、過去にどんな活動を行ってきたかは知らなかった。今回、記念誌の編集に携わりこれらが把握できた。10年後の協会はどうなっているだろうか。更なる発展を望みたい。

高梨 秀佳

30周年記念事業の実行委員をやらせていただきありがとうございます。小山市国際交流協会のあゆみがここまで素晴らしいものだったとは今まで知りませんでした。外国出身でもあることから、先輩方、今までご協力をいただいた皆様に、敬意を表します。これから10年のあゆみを皆様と、ともに素晴らしいものにしたいと思います。

竹本真誠

小山市国際交流協会の30周年の節目に、実行委員として携わることができうれしく思いました。関係者のみなさまありがとうございました。

大平拓史

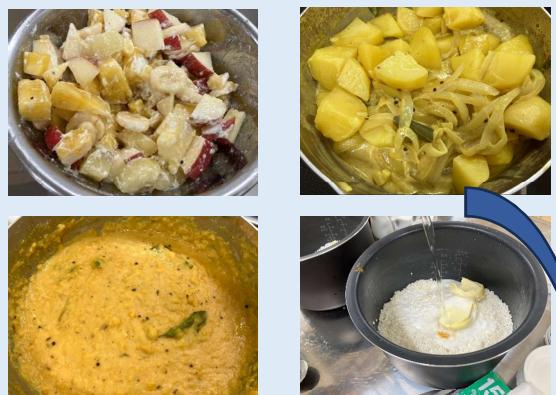
世界の料理教室～スリランカ料理～

市内在住のスリランカ出身の方を講師に招き、スリランカの料理の作り方を教えてもらう教室を7月20日に実施しました。2種のカレーや魚の揚げ炒め、フルーツサラダなど、様々なスパイスやココナッツミルクの風味が効いた料理の作り方を学びました。参加者同士でも互いに協力しながら調理を進めることができ、にぎやかな交流事業となりました。

材料 & 調味料



調理中



出来上がり



参加者コメント

私は料理をしたことがあまりないので、いきなりスリランカの料理をして大丈夫なのかと少し不安になりましたが、みんなで料理したから間違えないし、先生もわかりやすくて、楽しかつたです。

飯野こころさん

「夏休みの宿題お手伝いクラス」を開催しました！

白鷗大学教育学部の学生ボランティアの皆さんの協力で、今年度も7月27日、8月3日および8月10日の3回にわたり、外国人児童生徒向けの学習サポート事業を行いました。今回は、延べ45名の児童生徒および保護者が参加しました。子どもたちは、夏休みの宿題や1学期に勉強したことでわからないことを学生ボランティアのお兄さんやお姉さんたちに聞きながら、勉強に取り組んでいました。一方、保護者は子ども達が勉強をしている間に、日本語学習や日本文化に関する工作などに取り組みました。保護者や子ども達は、この機会を通して学習だけでなくお互いの悩みや情報交換等を行いながら積極的に友達の輪を広げる様子が見受けられ、非常に良い相乗効果となりました。



学生ボランティアからの感想文

私は日頃アルバイトで塾講師をしているため、その経験を活かす機会となりました。子供たちみんな明るく元気で接してくれて、とても楽しかったしあっという間に時間が来てしまい、ぜひまたボランティアに参加したいと思いました！ありがとうございました！ 藤本 弥緒さん

今回のボランティアを通して、日本で暮らしている外国人児童生徒と関わるという、とても貴重な体験をさせていただきました大学内で関わってきた外国人留学生とは違い、家庭や親の都合で日本に来た子どもたちなのでどのように接したらいいのかと不安な部分もありました。しかし、実際に話してみるとすごく楽しそうで一生懸命な子どもたちで、こちらの方が元気をもらえた時間になりました。また、外国人児童にとってどんな勉強が難しいのか、それを説明するにはどのように工夫したらよいのかを学べる機会もありました。今回のボランティアを通して得たものを、今後の学生生活や将来に役立てていきたいと思います。本当にありがとうございました。

中澤 美空さん

最初ははじめるか不安でした。ですが、教えていくうちに楽しさがわかつてきました。良い雰囲気で教えられたと思います。また、年齢が離れている分、話の内容も教える内容も私が小中学生の時より変わっていたので、少しギャップを感じました。日本語がわからない子に、ゆっくり優しく教えられたと思います。日本人として一生懸命に勉強してくれて嬉しかったです。良い経験ができました。ありがとうございました。

澤 優見さん

子ども達と学習支援を通して交流できて、とても楽しかったです。日本に来て少しの子もいましたが、みんな日本語が上手でびっくりしました。子どもに教えることは楽しく喜びが感じられ、教員になりたいという気持ちが促進されました。素晴らしい経験の機会をありがとうございました。また、このような活動に参加したいです。

室井 涼さん



学習風景

小山の夏祭りを楽しみました

7月20日、小山市内で夏祭りが開催されました。今年も小山高専留学生の有志が参加、その感想文が届いたので紹介します。外国人から見ると、異文化の初体験それぞれの描写がとても新鮮に感じられます。

Saad. BENJELLOUN さん（フランス出身）

Here are my impressions of the Oyama festival.

The Oyama festival was a much bigger event than I thought. I didn't know what to expect until they told me that we would have to carry a 500kg shrine on our shoulders. Although it scared me at first, there were almost 20 of us carrying it at the same time, taking turns and breaks, which made it manageable. As for the event, as a whole, seeing the parade of shrines was very beautiful. When we arrived at the temple, I loved the ceremony that took place there. We also had the opportunity to take pictures with real-life samurais, who even let us hold their katanas. I had a lot of fun during the festival and really enjoyed it. Telling myself that I managed to carry the shrine was also very rewarding.

私の祇園祭の感想です。祇園祭は、私の想像よりもはるかに大きなイベントでした。500kgの神輿を肩で担いでいくんだよと説明されるまで、日本のお祭りのことは知りませんでした。はじめは不安でしたが、約20人で交代しながら神輿を担いでいくことができました。祇園祭全体としては、神輿や山車やお囃子のパレードがとても美しかったです。須賀神社で行われていた儀式も素晴らしいです。また、刀を持った侍たちとともに写真を撮ったり、刀を持たせてもらったりしました。祇園祭に参加してとても楽しかったです。神輿を担ぎきった自分に誇りを感じました。

Jhang, Kai-Syun さん（台湾出身）

This is my first time participating in a festival where I can actually carry Mikoshi. At first, I thought it wouldn't be too heavy with so many people carrying it, but it still felt very heavy even with so many people carrying it. A towel is really important at this time. If I don't use a towel, my shoulders will feel very painful. I thought I would just walk around the community in the morning and afternoon, but the shrine was the highlight. When I was at the shrine, I saw the different Mikoshi which were very beautiful, especially the largest one. The warriors there were also very cool, and the ceremony was very special. I saw all kinds of people doing their own tasks there. It was very lively. I am very happy to be able to truly experience the traditional culture of Japan. This was the most interesting experience I had since coming to Japan. #Remember to bring your towel with you next time you attend the festival.

初めて神輿を担ぐ祭りに参加しました。最初は、大勢で担ぐからそんなに重くないだろうと思っていましたが、たくさんの人がいてもやはりかなり重く感じました。そして、タオルが重要です。タオルを肩にあてないと、とても痛くなります。午前と午後に地区内を練り歩くだけかと思っていたが、須賀神社への移動した後が山場でした。須賀神社には、さまざまな神輿があり、一番大きな令和神輿はとても美しかったです。とってもクールな侍やお祭りの儀式を見る事ができました。たくさんの人々が祭りに参加していて、とても賑やかでした。日本の伝統のお祭りを体験できて本当に嬉しかったです。日本にきて、一番の経験でした。※次回の祇園祭には必ずタオルを持っていくこと！

CaChu, Chi-Hsuan さん（台湾出身）

Carrying a Japanese Mikoshi is a very special and meaningful experience. Firstly, carrying the Mikoshi requires teamwork. Everyone needs to move in unison; otherwise, the Mikoshi can easily lose balance. Through this process, I realized the importance of collaboration. We all need to support and trust each other to complete this sacred task together. Secondly, this activity deeply embodies Japanese traditional culture and religious beliefs. Every step is filled with reverence and gratitude towards the deities. During the Mikoshi carrying, I could feel the devotion and enthusiasm of the people around me, which made me respect and understand this culture even more. Lastly, it is also a challenge of physical strength and perseverance. Carrying the Mikoshi is not an easy task; it requires overcoming physical fatigue and mental stress.

日本の神輿を担ぐことは、特別で意義深い体験です。まず、チームワークが必要です。皆が同じ動きをしないと、神輿が簡単にバランスを崩してしまいます。神輿を担ぎながら、協力の大切さを学びました。互いに支え合い、信頼し合うことで、この神聖な役割を果たすことができました。次に、神輿は日本の伝統文化や信仰心を深く体現しています。神輿を担ぐ一歩一歩が、神々への敬意と感謝に満ちています。担ぎながら、参加者の情熱や信仰心を感じ、日本文化に対する尊敬と理解が深まりました。最後に、体力と忍耐力の挑戦でもありました。神輿を担ぐことは簡単ではなく、肉体的な疲労や精神的なプレッシャーを乗り越える必要があります。

小山高専の留学生が、駅東自治会の神輿担ぎに参加されて2年経過しました。我々駅東自治会も国際交流のかけはしに一役協力できることを喜んでおります。日本の伝統行事でもあり、来年以降もぜひご参加下さるようお願い申し上げます。 駅東自治会 澤口茂利会長

